

研究課題名:根治切除不能または転移性腎細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害剤および分子標的薬の多施設共同研究
(多機関共同研究)

研究責任者:松波総合病院 泌尿器生殖科部長 萩原 徳康
共同研究者:濱本 幸浩, 榎本 虎偉

研究の概要

腎細胞癌の患者さんの20-30%が初診断時に転移を有し、遠隔転移した腎細胞癌の5年生存率は約12%と予後不良です。分子標的薬であるチロシンキナーゼ阻害薬(TKI)やmTOR(哺乳類ラパマイシン標的タンパク質)阻害薬が、根治切除不能または転移性腎細胞癌(mRCC)の治療の中心でしたが、2016年8月に免疫チェックポイント阻害剤(IO)であるニボルマブ(NIVO)がmRCCの二次治療として保険適用されました。その後、2018年8月にNIVO+イピリムマブ(IPI)併用療法、2019年12月にアベルマブ(AVE)+アキシチニブ(AXI)併用療法、ペムブロリズマブ(PEM)+AXI併用療法がmRCCの一次治療として保険適用されました。現在、mRCCの一次治療の中心はIO+IOもしくはIO+TKIとなってきていますが日本人での実臨床でのデータは十分ではありません。本研究では、mRCCに対する一次治療としてNIVO+IPI, AVE+AXI, PEM+AXIを施行された症例に関して、治療成績、有害事象、治療成績や有害事象に与える患者因子および腫瘍学的因子の解析を行います。また、治療が患者さんのQOLに与える影響、一次治療後の二次治療の治療成績、有害事象についても検討を行います。併せて、比較のためIOが保険適用となる前後のTKIおよびmTOR阻害剤で治療された患者さんの治療成績、有害事象、治療成績や有害事象に与える患者因子及び腫瘍学的因子の解析も行います。本研究を行うことにより、mRCCの患者さんが治療を選択する際の一助になると思われれます。この研究は岐阜大学医学部附属病院等との共同研究で、試料・情報は、匿名化したうえで岐阜大学医学部附属病院へ提供して分析されます。

研究対象者

2008年4月1日~2025年12月31日の間に、当院において根治切除不能または転移性腎細胞癌に対しTKI, mTOR阻害剤, ニボルマブ+イピリムマブ併用療法, アベルマブ+アキシチニブ併用療法, ペムブロリズマブ+アキシチニブ併用療法を受けられた方

利用する情報

病歴, 自覚症状, 身体検査データ, 尿検査, 血液検査, 腎生検/手術の有無, 病理検査, 転移臓器, QOL調査(FKSI-19, FACT-G, EQ-5)結果, 治療情報, 治療効果, 有害事象, 二次治療の有無/内容

利用する者:萩原 徳康, 濱本 幸浩, 榎本 虎偉

研究期間:2026年12月31日まで

連絡先

松波総合病院 泌尿器生殖科部長 萩原 徳康
電話:058-388-0111(代表)
FAX:058-388-2391